

Hospital Information 救急蘇生法について



救命救急科 副部長
呉 教東

2000年に救急蘇生法の新しいガイドラインが報告されました。そこでは、医学的根拠に基づいた蘇生法が、国際化、簡略化というコンセプトのもとで普及を目指しています。これまでの人工呼吸や心臓マッサージに加え、重症の不整脈のために突然止まってしまった心臓を再び拍動させるために、一般市民が自動体外式除細動器(AED: Automated External Defibrillator)を使用する取り組み(PAD: Public Access Defibrillation)も始まりました。

突然呼吸や心臓が止まった人を前にした時に、何もできない、何もできない人を無くすことを目指しています。ラスベガスのカジノで突然心臓が止まったお客さまに対し、従業員がAEDを用いて蘇生に成功したニュース映像をみられた方もいらっしゃると思います。

救急蘇生に関しまして日本も今そのレベルに近づこうとしています。関西国際空港にも今年からAEDが設置されるようになり、当院でも各フロアに設置しております。今後当院におきましても救急蘇生法を学べる場を作っていく予定にしております。是非とも、皆さまの愛する人を助けるために救急蘇生法(救命の連鎖)に関心をもっていただければと思います。

救急蘇生法の実際(一次救命処置のA B C D)



Chain of Survival (救命の連鎖)



内科



診療科のご紹介

内科は、循環器、呼吸器疾患以外の内科疾患全般を診療しています。診療の専門分化に伴い、約20年前に心臓センターとして循環器内科が、昨年、呼吸器センターとして呼吸器内科が分離し、現在内科の中心は、消化器および糖尿病・内分泌代謝専門の医師です。

つまり消化器疾患…食道・胃・腸、肝臓、膵臓、胆のうなどの疾患、糖尿病や内分泌代謝疾患(主に甲状腺疾患、高脂血症、肥満など)を得意としています。当院内科系常勤医師としては、消化器、循環器、呼吸器、糖尿病・内分泌代謝の専門医がほとんどですが、専門医資格の取得には内科認定医(専門医)資格が必要なので、内科全般に関しても水準以上の診療はできます。

右記以外の疾患の高度な診療は難しい場合もありますが、幸い近隣にはそれ以外の内科系疾患の専門医が多く、他の診療機関と密接な連携をとり、皆さまのお役に立てるよう努めています。



内科総括部長
小杉 圭右

健康わんぱいとレッスン



風疹の流行について

11年ぶりに風疹の流行がみられています。9月9日、厚生労働省はワクチン接種などを促す緊急提言を発表しました。風疹は発熱と発疹が出る子供の病気ですが、妊娠初期(5ヶ月以内)に感染すると、生まれた子供に心疾患や白内障難聴などの障害が出ることもあり、これを先天性風疹症候群といいます。今年流行の原因のひとつに、かつて女子中学生だけが対象であったワクチン接種が、94年の予防接種法改定で対象が1歳〜7歳の男女に切り替わり、79年4月2日〜87年10月1日生まれの人には予防接種の機会が失われ、風疹の免疫のないその世代が結婚年齢(16歳〜25歳)になっていくことがあげられます。今回の緊急提言は、先天性風疹症候群

を防ぐためのものです。①妊娠前の女性(10代〜40代)は予防接種を受ける。②妊婦の夫や家族は予防接種を受ける。③妊婦は抗体検査を受け、妊娠中に感染していた場合は専門医に相談の上、カウンセリングを受ける。明らかに風疹の既往、予防接種歴、抗体陽性確認がある人を除いて予防接種を受けることが勧められています。また妊娠前にワクチンを受ける場合、あらかじめ約1ヶ月間避妊した後接種を受け、接種後も2ヶ月間避妊することが重要です。



感染管理センター長
水谷 哲

病気と栄養

食後高血糖にならないために

- ①食後に適度な運動をしましょう。内臓脂肪を蓄積させないために適度な運動習慣をつけましょう。(運動の強度については主治医の指示を受けてください)
- ②規則正しい食事をしましょう。欠食や暴飲暴食を避け、適度な間隔を開けた1日3回の食事を心がけましょう。
- ③食物繊維をとりましょう。食事として水溶性繊維(海藻類、こんにゃくなど)と不溶性繊維(ごぼう、たけのこなど)をバランスよくとりましょう。
- ④吸収の早い糖分の摂取を控えましょう。砂糖や砂糖を多く含む菓子類、果物、ジュース類をとり過ぎないようにしましょう。
- ⑤肝臓を守りましょう。肝機能と血糖値には密接な関係があります。飲酒を控え、高脂肪食を避けましょう。

栄養管理課 西尾 勢津子



大阪けいさつ病院
理念

人々の健康と幸せのために、人権を尊重しつつ

「愛・熱・和」の精神をもって質の高い医療を提供します。

基本方針

- 大阪けいさつ病院は、患者さま中心に質の高い医療を提供するため、次のことをめざします。
- 【人権】患者さまの基本的な人権を尊重し、平等に医療を受けられるよう配慮します。
- 【医療の質】急性期病院として、安全かつ高度な医療を実践し、皆さまの満足を得られるよう努力します。
- 【地域への役割】地域の中核病院として、他の医療機関との連携を高め、住民の皆さまの健康を守ります。
- 【職員の行動指針】患者さまのため医の倫理を尊重し、常に自己研鑽し、誠意を持って行動します。

患者さまの権利と義務

- 大阪けいさつ病院は、理念に基づく基本方針を実践するため、ここに「権利と義務」の規範を掲げます。
- 1. 個人の尊厳及びプライバシーが守られること。
- 2. 平等かつ最善の医療が受けられること。
- 3. 自己の病状や治療に関して、十分な説明を受け、了解した上で自ら決定すること。
- 4. 最善の治療を受けるため、ご自身の健康に関する情報を提供していただくこと。
- 5. 他の患者さまの療養生活を妨げないよう、お互いに配慮していただくこと。

連携医のご紹介



赤垣 洋二 医師

主に透析療法を中心とした医療を行うべく、平成2年2月に四天王寺南門近くで開業し、丸14年が過ぎました。開院当時は大病院との連携も今ほど充分でなく、病院への紹介、特に急な処置が必要な場合、非常に苦労した事を覚えています。こういった苦労は当時の開業医も同じではなかったかと思えます。このような思いが察知されたかどうかはわかりませんが、大阪けいさつ病院の新築第一期工事が完成した、平成3年2月に病診連携を意図した「地域医療連絡室」を開設する企画がなされました。この連絡室を有効的に運営するため当時の天王寺区医師会長・由利嘉章先生のお声かけで、大阪府下10ブロック医師会(天王寺区、生野区、城東区、東・南区、浪速区、鶴見区)の協力のもと運営委員会が設置され、職員の雇い入れ、設置機材の購入などが協議実行されました。その後、少しブランク時期がありましたが、平成5年9月には連絡室が開設、起動するようになりました。運営方法や各区医師会の負担率など若干の変更をみてから、平成11年まで運営され、その頃には他の大病院も次々と自院内で連絡室を持たれるようになりました。各病院に地域医療連絡室ができ、気軽に患者さまを紹介できることが何よりも有難く思っています。反対に病院から紹介を受けることもあり有難く思っています。ご紹介頂いた患者さまで抗ヘパリン抗体が出現した珍しい症例があり、大阪透析研究会にけいさつ病院 小杉圭右部長と連名にて「ヘパリン依存性血小板減少症(HIT)を疑ったまで時間を要した糖尿病性腎症透析患者の一例」として発表させて頂く事もできました。今後ともこういった症例の機会に恵まれることを希望するともに病診連携の研究発表もできたらと思っております。なお、当クリニックの紹介をホームページ(<http://www5.ocn.ne.jp/~akagaki/>)で行っております。

赤垣クリニック(内科、循環器科)人工透析
大阪市天王寺区大道1-4-9大信ビル2階
TEL:06-6775-1736
JR天王寺駅から北へ徒歩8分

今後ともよろしくお願い致します。

TOPICS & NEWS

糖尿病と血管の病気について

内科 医長 馬屋原 豊



「糖尿病は血管の病気です」と書くと、多くの方は驚かれると思いますが、あながち間違いともいえません。多くの糖尿病患者さまには自覚症状がありませんが、それでもなお糖尿病を治療する必要があるのは、糖尿病で高血糖が持続すると様々な合併症が出現するからです。この合併症、大きく分けると、細小血管障害(糖尿病網膜症、糖尿病腎症、糖尿病神経障害(いわゆる三大合併症))と、大血管障害(動脈硬化による疾患:心筋梗塞や狭心症といった虚血性心疾患、脳梗塞などの脳血管障害、下肢の動脈が詰まる閉塞性動脈硬化症)に分けられます。これを見ておわりの通り、高血糖の持続は全身の血管を傷害することによって合併症を引き起こすのです。ですから、糖尿病は血管の病気であるとも言えるわけです。

最近、耐糖能異常と呼ばれる糖尿病予備軍の人たちについても、糖尿病患者さまと同じくらい動脈硬化が進みやすいことが判明してきました。どうやら、耐糖能異常を含む初期の糖尿病患者さまに特徴的である、食後の高血糖が動脈硬化の進展に関与しているようです。つまり、食後の血糖値上昇を抑えることが、動脈硬化の進行を防ぐポイントと考えられるようになってきました。そのためには、もちろん食事内容に気を配っていただくことが大切(栄養士さんのコラム参照)ですが、食後の高血糖を抑制する薬剤がいくつか使用可能となり、それらの動脈硬化進展抑制効果が報告されるようになってきましたから、このような薬剤を適切に処方していくことが重要であると考えています。

夕陽ヶ丘地域医療フォーラムが開催されました

去る10月30日(土)に「第11回夕陽ヶ丘地域医療フォーラム」が開催されました。このフォーラムは、地域の医師の方と共に医療の質の向上をはかるため、年に2回開催しております。

今回のテーマは『糖尿病と心血管疾患～糖尿病は心血管疾患をつくる～』でした。食後高血糖と高血圧、さらに心筋梗塞との関りについての講演と、パネルディスカッションを行い、多くの先生方にご参加いただきました。

市民公開講座のお知らせ

けいさつ病院脳神経外科では脳神経外科部長・森本哲也が会長で第48回日本脳神経外科学会近畿地方会を主催します。

(URL:<http://square.umin.ac.jp/jnsk/>)

これに伴い、下記のとおり、市民公開講座を開催いたします。

急速な高齢者社会の到来をむかえて、脳血管障害についてわかりやすく、予防、原因、治療、リハビリテーションなどについての講演を予定しております。皆さまのご参加をお待ちしております。

【日時】平成16年11月14日(日) 午前10時～12時

【場所】当院講堂(4階) ※参加費は無料です

【講演内容】

糖尿病と脳動脈硬化症…小杉 圭右(けいさつ病院 内科統括部長)
脳卒中の早期治療……越前 直樹(けいさつ病院 脳神経外科副部長)
言語リハビリテーション…柴垣 光江(けいさつ病院 言語室(言語聴覚士))

お問合せ 大阪けいさつ病院脳神経外科内 担当:越前(こしまえ)
〒543-0035 大阪市天王寺区北山町10-31
E-mail:neurosurgery@oph.gr.jp

5階南病棟について

5階南病棟看護師長 中島 かよ子



▲糖尿病教室で担当医師による講義と、運動療法を体験される患者さま

5階南病棟は、小児科・眼科・内分泌内科の3科混合病棟です。年齢層も、0歳から100歳と幅広い患者さまがご入院されます。病棟には、学童期の子どもさまが入院しても安心して勉強できる院内学級があります。午前中だけの授業ですが、学校と同じカリキュラム(算数・国語・社会・理科・図工・習字等)で行っています。パソコンを使っての授業は好評で人気があります。

また、糖尿病疾患の方も多く入院されており、治療(食事・運動・薬物療法)と合併症(神経障害・糖尿病性網膜症・腎症等)の精査と予防教育に力をいれています。

教育入院は、1週間コースの集団教育と受け持ち制による個別教育を行っています。担当医師による講義や実際に血糖測定を行ったり、栄養指導ではご家族の参加や、外食・運動療法を体験して頂きます。

教育入院をご希望される方は、糖尿病外来受診時にお申し込みください。

保険証確認

当院は患者さまに毎月最初の受診時に保険証の提示をお願いしておりますが、保険証の確認ができない場合、患者さまにとって不利益が生じることがあります。その説明を簡単にさせていただきますと、例えば、保険証のご提示がない場合、通常、保険の取扱いをすることができないため自費扱いとなり、高額な診療費を請求させて頂くこととなります。他にも患者さまにとって保険証の有無が明確でないということはいろいろな弊害が生じます。患者さまの保険証の確認は厚労省からも指導をうけており、また円滑な診療を行うためにも保険証の確認にご協力ください。

また、11月1日より一部負担金等一部助成証明書(65歳以上の方)、障害者医療証、ひとり親家庭医療証、乳幼児医療証をお持ちの方の制度が変更になりました【一つの医療機関あたり、入院・通院とも1日につき各500円(月2日限度)のご負担】。ご不明な点がございましたら、当院初診受付にてご確認ください。

投稿の募集
(皆さまからのご意見・ご質問等)
メールでのご連絡はこちらまで
master@oph.gr.jp
病状の詳細につきましてはメールでは誤解が生じる場合がございますので直接ご来院の上
ご相談くださいませ。

「従業員の自転車は患者のほうに置かないようにしてほしい。自転車の台数が多い時は困る。」
通院中の患者さまから自転車置き場についてご指摘をいただきました。職員の自転車は、専用駐輪場に停めることになっております。さっそく職員には、職員自転車置き場へ必ず置くようにすることをお願いいたしました。ご指摘ありがとうございました。

編集後記

今年の日本列島は、台風と地震と天災続きです。災害時の救急医療も重要ですが、日常の体の急変に対していかに対処するかも身近な問題です。最近の救急蘇生法の取り組みについての解説を読んで、関心を持っていただけたらと思います。今年は風疹流行の年ですが、冬に入りインフルエンザの流行も懸念されますので、十分ご注意ください。

小児科 部長 西垣 敏紀